

“ぼんやり”を生かす

■デフォルト・モード・ネットワーク

みなさんは「デフォルト・モード・ネットワーク」という言葉を聞いたことがありませんか。

デフォルト・モード・ネットワークとは、「ぼんやりした状態の脳が行っている神経活動」のことです。そのときの脳は決して休んでいないわけではなく、アイドリング状態にあり、むしろ脳の特定部分が活発に活動している状態にあります。最近の研究では、このぼんやりした状態に大きな意味があり、この神経回路は自己認識やひらめきなど、私たちの想像する力に大きく関わっていることがわかってきています。

■日常の中のデフォルト・モード・ネットワーク

ここで質問です。ふだん、多くのみなさんがナイスなアイデアをひらめくときってどんな場合でしょうか。

この質問に対してほとんどの人が同じ場所をこたえます。それは「お風呂」です。お風呂に入っているとき、あるいはソファに座って天井を見つめているときに多くの人がぼんやり、あるいはぼんやりとした状態になります。そして、そのときにいろいろなアイデアが浮かぶと感じているのです。

子どもも同じです。「うちの子いつもぼんやりとしている」ということはありませんか。特に、ちびっ子ギャングと言われる年頃の子どもたちは、さつきまで静かに座っていたのに、急に動き出したり

しませんか。その場合のほとんどがいたずらだったりしませんか。大人たちからすれば、さつきまで静かにしていたのにと思いかもしれませんが、彼らは決しておとなしくしていたわけではなく、いろいろなことを想像し、次に何をしようかと考えていただけです。

子どもたちのぼんやりとした時間は想像力をやしなう大切な時間です。もちろん、ずっとぼんやりとされていては困りますが、ただ、「いつまでもぼんやりとしていないで、やることやりなさい」という前に、この子はいまいろんなことを思い描いていると思っただけであげられたらいいのではないのでしょうか。そうすれば少しはイライラもおさまるかもしれません。難しいことはありませんが…。

■知識の集積化

知識や情報があつまるところに人はあつまります。東京などの大都市が多くの人をひきつけるのは、そこに多数の知識や情報が集積しているからです。知識や情報があつまり、人があつまり、お金があつまります。

かつてインターネットが普及すれば世界はフラットになると言われました。同じ場所にあつまらなくとも、知識や情報は世界中のどこにいても手に入れることができるようになるのです。ですが実際は知の集積化がさらにすすみ、むしろ東京への一極集中が加速化しました。考えてみれば、知識と知識のかけ合わせによっておこるイノベーションの観

点からすれば、知識や情報を手に入れただけでは何の役にも立たないわけで、都市への集中は当然のことと言えます。

■地方の有為性

知識の集積化はアフターコロナになってますます進んでいくと思います。これを止めることはできません。だからと言って、地方が何もできないわけではありません。むしろ地方には地方なりの有為性があるはずで、それが冒頭で紹介した「デフォルト・モード・ネットワーク」による可能性です。

ぼんやりとした時間を一緒に過ごしながら、いろいろな情報を交換することによってクリエイティブな発想が生まれるとするならば、豊かな自然を持つ地方は「デフォルト・モード・ネットワーク」の状態を提供することのできる格好の場所だと思えます。

そしてもう一つ、アフターコロナにおいて、リモートワーク需要もますます高まってきていることを考えれば、クリエイティブな発想を生みやすい環境を提供できるのは、やはり新たなコミュニティを創出するための空間と自然をもっている地方だと私は思います。



いかほ市長
市川雄次

市政運営から日常の出来事まであらゆるテーマをコラムにしています。過去のコラムは市HPからご覧になれます。

